

江別市かわまちづくりの取組みについて -歴史的建造物を活用した水辺空間の賑わい創出-

札幌開発建設部 江別河川事務所 計画課

○葛西 大樹
渡辺 雅裕
西村 栎哉

江別かわまちづくりでは、かつて石狩川の舟運を支えた旧岡田倉庫等の歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備し、千歳川に面する江別市条丁目地区と大川通地区の認知度・知名度、イベントでの利用価値、観光ポテンシャルを向上させることで、交流人口の増加、水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客と地域住民に愛されるまちづくりを図っている。本論文では現在のかわまち計画の推進状況について報告する。

キーワード：かわまちづくり、地域交流・連携、地域活性化

1.はじめに

国土交通省では、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成の円滑な利用推進を図るため、地域との連携の下で立案された地域の魅力向上を目指す計画について登録を行う「かわまちづくり」支援制度を推進している。かわまちづくりとは、河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観・歴史・文化及び観光基盤など地域の魅力という「資源」や地域の創意に富んだ「智恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民との連携のも

とで、実現性の高い河川や水辺の整備・利活用計画により、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指し、円滑な利活用推進を図る取り組みである。平成21年度にかわまちづくり支援制度が創設されて以降、令和7年8月時点で303箇所が登録されている。かわまちづくり支援制度の流れを図-1に示す。

2.地域概要

江別河川事務所では、千歳川に面する江別市条丁目地区と大川通地区を一体に整備するかわまちづくり計画を、江別市と密に連携を取りながら進めている。江別市と千歳川の特性について記す。

(1) 江別市の概要

北海道江別市は、札幌市の東側に隣接する人口約11万人の都市である。市内に5つのJR駅が存在するほか、国道12号、道央自動車道など交通アクセスに恵まれた立地特性を有している。昭和30年代後期から昭和40年代にかけて、札幌市への人口集中の影響を受け、隣接する江別でも人口が急増した。また、文京台地区の大学、その他教育・研究施設の立地、第1工業団地の整備などにより道央圏の中核都市としての地位を築いた。3つの市にまたがる野幌森林公園や、江別市ガラス工芸館等の自然や歴史に触れることが出来る観光スポットが数多く存在しているほか、平成16年にはかつて江別市の産業を支えた「江別のれんが」が北海道遺産に認定され、全国的に有名となっている。

(2) 江別市の歴史

明治4年、76人の農民が江別に最初に移住したことを



図-1 かわまちづくり支援制度の流れ（国土交通省HPより¹⁾）

はじめとし、明治11年には屯田兵10戸56人が移住。同年、明治政府による開拓使府令が布達され江別村が誕生。その後、各地から屯田兵が入地し、計画的な開拓が進められた。

明治30年代から大正時代にかけては、石狩川と千歳川の合流点であることによる舟運の発達に加え、鉄道との合流点にもなっていたため、物資の積替え地として発展した。また、同時期に建設された岡田倉庫は、周辺や近隣の開拓地に運ばれる食料や日用品の保管に活用されており、現在の市街築堤部分には倉庫群が立ち並んだ。

昭和の時代に入り鉄道や自動車運送が主流になると舟運は衰退し、岡田倉庫もその役割を終えた。しかし、市内の木骨石造の建造物としては唯一、明治時代の所産であり、現在まで良好な保存状態を維持していることから、岡田倉庫は、平成10年に市へ寄贈され、岡田倉庫は平成29年に江別市の指定有形文化財に指定された。さらに舟運に利用された外輪船上川丸（写真-1）は、現在、江別河川防災ステーションにレプリカが展示されている。

写真-1 上川丸と江別港（札幌開発建設部HPより²⁾）



図-2 千歳川流域概要図

(3) 千歳川流域の流域概要

千歳川流域は、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、南幌町、長沼町の4市2町からなっており、人口は約37万人に達し、この約60年間で2倍以上に増加したほか、新千歳空港を中心とする臨空型工業地帯の拡大等により発展が著しい地域である。千歳川は支笏湖を源とする幹川流路延長108km、流域面積1,244km²の石狩川の1次支川である。千歳川の流域概要図を図-2に示す。支笏湖を流れ出た千歳川は千歳市街地を抜け、低平地に入って河床勾配が1/7,000程度の緩やかな流れとなり、沿川に広がる広大な農地を流下して、江別市街地において石狩側に合流する。中流域から下流域は、標高10m未満の低平地であるため、洪水時には石狩川本川の高い水位の影響を長時間受けるという特徴を有している。昭和56年8月洪水では、こうした石狩川の高い水位の影響を受け、千歳川流域の複数箇所で堤防からの越水、破堤が発生するなど甚大な被害が発生した。

このため、千歳川流域では、平成17年に「石狩川水系千歳川河川整備計画」³⁾を策定し、石狩川の高い水位の影響に対応した河川整備を進めている。

3. 江別市かわまちづくり計画

(1) 江別かわまちづくり計画の策定

令和4年8月9日、江別市により、歴史的建造物である旧岡田倉庫（写真-2）を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点として位置づけ、江別港を中心に舟運で栄えた条丁目地区の歴史性を活かした観光・まちづくりによる賑わいの創出を目的とし、「江別市かわまちづくり計画」が策定された。

このかわまちづくり計画に基づき令和4年より札幌開発建設部と江別市は地元住民と連携し、河川空間を活用した旧岡田倉庫をはじめとした観光促進の整備を進めている。

(2) 江別市かわまちづくり協議会

江別市は、江別市街築堤の整備に関連し国土交通省の



写真-2 旧岡田倉庫の外観（江別市かわまちづくり事業HPより）

「かわまちづくり支援制度」を活用した条丁目地区の整備を進めるため、「江別市かわまちづくり協議会」を設立した。協議会の目的は、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する旧岡田倉庫の利活用方法等について検討するとともに、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することである。協議会には事務局となる江別市をはじめ、学識経験者や地元住民が参加しており、江別河川事務所は協議会での意見・要望を堤防整備へと反映させるため、アドバイザーとして参加している。令和2年に初回が開催されており、令和7年まで計12回開催されている。協議会と後述するかわまちづくり勉強会、各種ワーキンググループ（以下、WGという）について、これまでの開催経緯を表-1に示す。また、令和5年度第1回江別市かわまちづくり協議会の様子を写真-3に示す。

a) 旧岡田倉庫の移転先及び利活用方法

旧岡田倉庫の移転先及び利活用方法については、千歳川と条丁目地区の繋がりが強く、かわまちづくり計画の

重要な要素となるという意見を踏まえ、旧岡田倉庫利活用WGを新設し検討されることとなった。

移転先に関して広範囲から検討を行った結果、地元住民による舟運の歴史を感じられる場所の希望や、市の「歴史のまち」を重要視する観光振興計画、文化財の指定理由と合致するということから、千歳川との繋がりが深い旧岡田倉庫の現在地周辺が望ましいという結論となつた。旧岡田倉庫の移設前後の位置を図-3に示す。

利活用方法については、従来のような演劇や音楽活動の場としての文化的な利用以外の可能性も検討し、様々な提案がなされた。その結果、従来の利活用方法の他に、条丁目エリアの歴史的な写真パネルの展示、映像を流せる仕掛けなどにより、舟運の歴史を紹介することや、江別駅前から旧岡田倉庫の位置する河川まで「歩くことを楽しめる道」として整備し、フットパスやリアル謎解きゲーム事業と融合させるなど、散策やドライブ、サイクリングツーリズムの拠点、休憩所としての活用などがWGの意見としてあげられた。さらに、協議会では旧岡田倉庫周辺の河川敷地を利用し、民間参入によるオープンカフェやイベントを実施できるような整備をする方針が決められた。市の文化財である旧岡田倉庫に活用制限があることも踏まえ、旧岡田倉庫に不足する厨房や事務所などの機能を附帯施設に設置するなど、一体での利活用を行う方針となつた。

b) かわまちづくり勉強会の設置

協議会にて誰もが参加可能で広く意見交換を行えるようなワーキンググループを開催することについて要望があり、江別市としても広い意見を求める場を設置したいと考えていたことから協議会のワークショップとして、今後のかわまちづくり計画策定を見据え、広く地元住民や事業者等との意見交換を行うことを目的とした、かわまちづくり勉強会が設置された。江別市のHPと広報えべ

年度	月	かわまちづくり協議会	かわまちづくり勉強会、各種WG
令和2年度	11月	[第1回協議会] 令和2年11月4日（水）	[第1回旧岡田倉庫WG] 令和2年11月18日
	12月	[第2回協議会] 令和2年12月21日	
	1月		[第1回勉強会] 令和3年1月19日（火）
	3月		[第2回勉強会] 令和3年3月23日（火）
令和3年度	7月	[第3回協議会] 書面開催	
	9月		[第3回勉強会] 令和3年9月28日（火）
	10月	[第4回協議会] 令和3年10月25日	[第4回勉強会] 令和3年10月18日（月）
	11月		[第5回勉強会] 令和3年11月16日（火）
	12月		[第6回勉強会] 令和3年12月21日（火）
	1月	[第5回協議会] 令和4年1月24日（火）	[第7回勉強会] 令和4年1月26日（水）
	3月	[第6回協議会] 令和4年3月29日（火）	[第8回勉強会] 令和4年3月17日（木）
	6月		[第9回勉強会] 令和4年6月30日（木）
令和4年度	8月	[第7回協議会] 令和4年8月25日（火）	
	9月		[第10回勉強会] 令和4年9月1日（木）
	11月		[第2回旧岡田倉庫WG] 令和4年11月2日（水）
	12月		[第11回勉強会] 令和4年12月8日（水）
	1月		[第3回旧岡田倉庫WG] 令和5年1月25日（水）
	2月		[第12回勉強会] 令和5年2月21日（火）
	3月	[第8回協議会] 令和5年3月29日（火）	[第1回運営WG] 令和5年3月29日（水）
	5月		[第2回運営WG] 令和5年5月11日（木）
令和5年度	6月		[第3回運営WG] 令和5年6月20日（火）
	9月		[第4回運営WG] 令和5年9月5日（火）
	10月	[第9回協議会] 令和5年10月2日（月）	[第5回運営WG] 令和5年10月23日（月）
	11月		[第6回運営WG] 令和5年11月27日（月）
	12月		[第1回かわまちWG] 令和5年12月26日（火）
	1月	[第10回協議会] 令和6年1月22日	
	5月		[第2回かわまちWG] 令和6年5月29日（水）
令和6年度	8月	[第11回協議会] 書面開催	
令和7年度	9月	[第12回協議会] 令和7年9月19日	

※回数は通算を記載



写真-3 令和5年度 第1回江別市かわまちづくり協議会

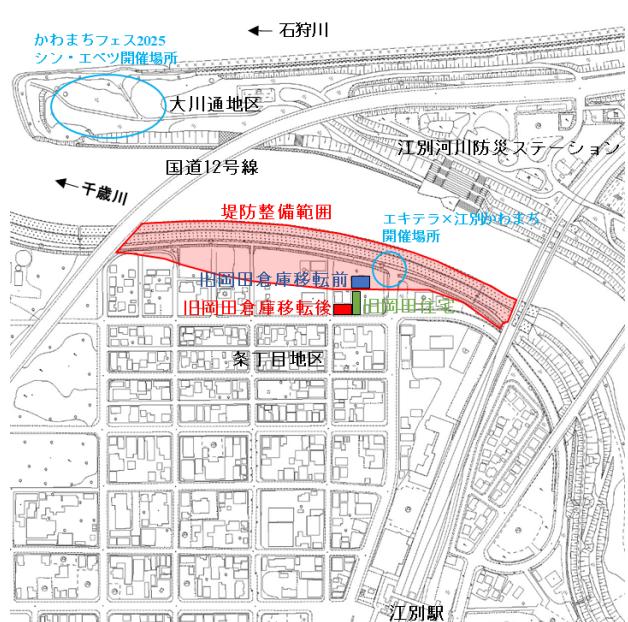


図-3 旧岡田倉庫の移設前後の位置図

つにて募集を行うことで、誰でも参加することが可能となっているため、地元や事業者等の参加者が多くを占めており、ここで聴取した意見を協議会で報告することにより、地元や事業者等の意見がかわまちづくり計画へ反映されている。協議会での検討によって、必要に応じて勉強会以外にも旧岡田倉庫利活用WG、かわまちづくり運営WG、かわまちづくりWGが設置され、令和7年時点で計22回開催されている。勉強会では、前回の振り返りやかわまちづくり等の先行事例の勉強、条丁目地区でやりたいことや、どのような課題があるかなどの意見交換を行っている。開催後には江別市のHPにて開催報告が公開されており、だれでも勉強会の概要にアクセスすることができる。第2回江別かわまちづくり勉強会の開催報告を図-4に示す。

c) かわまちづくり計画書の素案の検討

国による千歳川の側帯や階段護岸と、江別市による条丁目地区の拠点整備、多目的広場の整備等のハード施策や、上記で検討された旧岡田倉庫や勉強会の運営方法等のソフト施策について、協議会で確認しながら素案の作成が行われた。その後、市民意見を広く聞くパブリックコメントによる意見を踏まえて計画書の完成となる。パブリックコメントでは、「歴史的建造物を扱うため、文化財や古建築の専門家を直接交えて議論を深めてほし

い」、「ダウンリバーカヤックが楽しめる環境整備を検討してほしい」など様々な意見が寄せられた。前者については、現在まで協議会へ委員や文化財担当の部署への出席を求める等の対応は行っているが、今後も必要に応じて専門家の協力依頼を検討していくこととし、後者についても千歳川の水辺空間を活用したイベント・アクティビティプランの検討を進めていくこととしている。これらの意見も踏まえ計画書の最終確認が行われ、かわまちづくり計画書が提出された。これにより令和4年8月9日、かわまちづくり計画として登録された。

(3) 施設整備に関する協議

第8回～第12回の協議会では、主に登録されたかわまちづくり計画を踏まえて、より具体的な整備案を検討した。さらに、大川通地区の整備内容や、新たな運営WGの設置に関して議論された。

a) 堤防の整備と旧岡田倉庫の改築案の検討

堤防エリアの設計については江別河川事務所によって、実施されており、初案が提示された。具体的にはキッキンカーを並べてイベントを開催できるような天端幅の確保や、緩いスロープを設ける等、勉強会で挙げられた意見をできるだけ反映させる形で進められている。また、江別市にて設計を行っている旧岡田倉庫に関しても改築案が提示され、創建時の姿を残しながらも耐震補強を行うことに加え、床暖房や屋根の断熱材を入れることによる冬期の居住性の向上。さらに、照明についてもかつての劇場用の照明から、多目的な用途に対応できる照明計画とするなど、勉強会での意見を取り入れた設計となっており、この方針で引き続き設計を進めることが協議会で決定した。これらをもとに旧岡田倉庫の移転復元工事は令和5年に開始され令和7年に竣工した。隣接する旧岡田住宅に関しては令和8年度に改築工事が行われる予定である。市街築堤ハード施策の概要を図-5に示す。

b) 運営WGの設置

協議会や勉強会を通して整備の案や方向性が定まり、今後は堤防や旧岡田倉庫の具体的な管理、運営方法や利活用方法を検討するため、運営WGが設置された。運営WG

**江別市かわまちづくり勉強会
NEWS LETTER**

第2回勉強会 報告：3/23（火）開催

旧岡田倉庫の利活用と条丁目地区のかわまちづくりに関する協議を行うために設立された「江別市かわまちづくり協議会」のワークショップとして、勉強会を開催しました。

勉強会では、下記の議題①②について江別市・江別河川事務所の説明、議題③では条丁目地区でやりたいことを意見交換しながら絵にしていく「ドローイング」を行いました。

新型コロナ禍の非常に厳しい状況にありますが、色々な方と一緒に議論を重ねながら、条丁目地区を元気にしていきたいと思います。

今回の勉強会の議題

- ①前回勉強会の振り返り
- ②かわまちづくり先行事例の紹介
- ③意見交換をしながらのドローイング

条丁目地区的整備イメージ(案)

※ミスペリング江別 林氏提供

●意見交換の概要

「灯篭流しやアイスキャンドルといった市民が楽しめるイベント」「子どもを安心して遊ばせることのできる場所の整備」「JR 江別駅から条丁目地区にかけての顔合わせの創出」「条丁目地区的ブランド化」「持続可能な整備のあり方」等に関する意見が挙げられました。

今後の勉強会については、若い世代や女性が参加しやすい場にすることが提案されました。

江別市かわまちづくり勉強会って何？

千歳川と江別市条丁目地区の歴史や文化、人々のつながりを活かしながら、条丁目地区をより明るく元気にするための「かわまちづくり」に関する勉強や意見交換を行っています。

条丁目地区的未来と一緒に考えましょう！

次回勉強会は
令和3年8月
開催予定
です！

【事務局】江別市役所商工労働課内
(電話) 011-381-1023 (Eメール) shoko2@city.ebetsu.lg.jp

江別市
Ebetsu City

図-4 第2回江別かわまちづくり勉強会ニュースレター
(江別市かわまちづくり勉強会HPより)



図-5 市街築堤ハード施策の概要

では他自治体での歴史的建造物の利活用・管理運営の例の紹介に加え、旧岡田倉庫と旧岡田住宅の民間運営会社へ、どのような運営を求めるかの議論を行った。具体的には、暖房費用や照明費用等のランニングコストを踏まえ、実際に運営した際にどのくらいの収益と費用を要するかについてを試算を行い、その結果、カフェ事業のような施設であれば事業が成立する見通しであることがわかった。

c) 大川通地区の整備内容についての協議

市街築堤の対岸河川空間である大川通地区の整備、利活用に関する議論がなされた。大川通地区については石狩川と千歳川の合流点を望むことができ、ポテンシャルの高い空間として期待されている。勉強会では「地域の人々がふらっと立ち寄れる場所づくり」や「子どもたち自身が積極的にかかわっていくスタイルのイベント」を実施したいとの意見が出され、花火大会やコンサート等の利用が挙げられた。協議会でも今後の河川整備のためにある程度の方向性を決める必要があるとされている。これを基に令和5年と令和7年に実証実験が行われた。

4. 地域の取組み

「かわまちづくり」支援制度には、一定の要件を満たし、「都市、地域再生等利用区域」に指定することにより、河川敷地を民間事業者が占用し営業活動の実施を可能にする仕組みがある。江別市かわまちづくり計画では、今後の「都市、地域再生等利用区域」への指定を見据え、営業活動を行った場合の実施手法や集客効果の確認のために、以下のような実証実験をはじめとした地域の取組みが行われている。

(1) 大川通地区の利活用に関する実証実験

大川通地区での利活用における、集客効果と実際に飲食店や体験ブース等の運営の実証実験として令和5年10月14日にシン・エベツと令和7年9月7日にかわまちフェス2025が実施された。いずれも、江別市のまちづくりを盛り上げていきたいという思いを持った地元の地域団体により、主体的に企画、運営が行われている。

シン・エベツでは、シン・エベツ実行委員会によってシンガーソングライターによるライブ、地元中学校吹奏楽部や高校のダンス部などのステージの演出やキッチンカー等の出店、ディキャンプスペース、楽しい遊び場、江別河川事務所のかわたびほっかいどうとしてのブースやタッチプール等が催された。3,300人程度の来場者があり、イベントとして盛り上がりを見せていた。さらに、2023年度にかわたびほっかいどうによって開催された、水辺にまつわる活動報告の中から特に優れたものを発表する「第三回かわたびほっかいどう大賞」⁴⁾では、元を交えた地域活性化の取組みとして評価され、優秀賞を受賞している。シン・エベツのチラシと当日の開催状況



図-6 シン・エベツのチラシと当日の開催状況



図-7 かわまちフェス2025のチラシと当日の開催状況

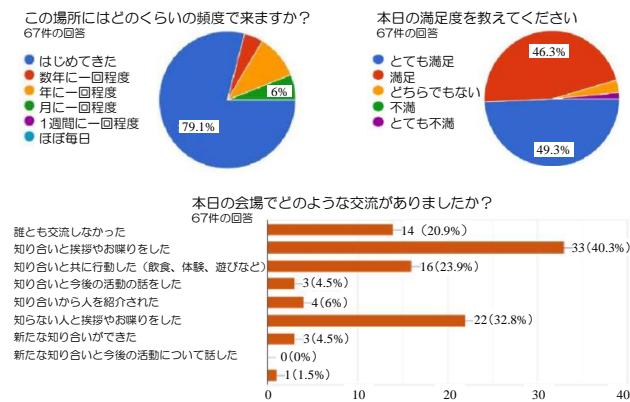


図-8 かわまちフェス2025の事後アンケート

を図-6に示す。

かわまちフェス2025に関しては、えべつのまちづくり株式会社によって、焼きたてピザなどの飲食屋台やプロスポーツ選手による運動・健康プログラム講座、シャボン玉ショー、サウナ体験などが開催された。江別河川事務所は弁天丸による環境学習体験を実施している。800人程度の来場者があり、前日から雨が降る中で多くの来場者があった。かわまちフェス2025のチラシと当日の開催状況を図-7に示す。

開催時に実施した来場者アンケート（図-8）には、大川通地区に初めて訪れた来場者が全体の約8割を占める中で全体の9割が「満足であった」と回答しており、この場所のポテンシャルの高さを確認することが出来た。その中で、「知らない人と挨拶やおしゃべりをした」方が3割を占めており、空間としての魅力だけではなく他の者と交流しやすい場所づくりを行うポテンシャルも確認されている。

一方で前日からの雨によるぬかるみが発生し、基盤整備の面で課題が確認された。これを受けた令和7年度9月19日の協議会へ報告を行い議論した結果、国で対応できる部分と、運営していく主体で整備する部分のすり合わせを行って対応することになった。

（2）条丁目地区による実証実験

令和7年2月8日、かつての賑わいに反して暗く寂しい雰囲気となってしまった江別駅前地区を明るく照らすために、約1,000個のアイスキャンドルを点灯させる「エキテラ」が地域住民によって開催されている。これと連携し江別河川事務所では、市街築堤でイルミネーションや撮影スポットの設営、小学生を対象とした宝探しゲーム、雪の滑り台等の催しを行う「エキテラ×江別かわまち」を開催した。また、江別市の歴史や市街築堤の今後の整備に関して学ぶことが出来るパネルの展示やクイズも行っており、当日は子供連れを含む多くの来場者があり賑わいを見せた。エキテラ×江別かわまちのチラシと当日の開催状況を図-9に示す。

5. 江別市かわまちづくりの工夫点と今後の展望

ここまで江別市かわまちづくりでは、地元の方々の意見も十分に反映出来るような勉強会の開催をはじめとし、旧岡田倉庫利活用WGやかわまちづくり運営WG等のフェーズ毎にテーマを絞ったWGの開催、さらにかわまちフェス2025等の実証実験を実施することによる、継続的な課題の発見と改善の取組み等、江別市や地元の方々と密に連携をとりながら様々な工夫を行ってきた。

令和7年度末には第13回の協議会が予定される予定となっており、現在も活発なかわまちづくり運営が進められている。旧岡田倉庫についても運営会社が選定され、令和8年度よりカフェ等の運営が開始される予定となっている。市街築堤の本格的な堤防盛土にも今年度着手

（写真-4）し、各所において協議会等で議論してきたことが実際に形となる段階となっている。これに伴い協議会やワーキングでもさらなる議論の活発化が予想されるため、これまで以上に丁寧な対応を行い、かわまちづくりを進めていきたい。

将来的には、市街築堤と大川通地区を前述した「都市・地域再生等利用区域」に指定し、河川空間のオ



図-9 エキテラのチラシと当日の開催状況



写真-4 令和7年度 市街築堤での盛土工事の様子

プリン化を図ることで恒常にオープンカフェやキッチンカー等の営業活動を可能とし、より利便性を高め、市街築堤の活気を取り戻すことが期待される。さらに営業活動の結果や課題等も精査することで、持続的な展開に繋げることができる。

このようななかわまちづくりを目指し、江別河川事務所では今後においても江別市や地元住民と連携を強めながら、これらの実現に向けて協議会や実証実験等の試行的な取組みを検討していく。

参考文献

- 1) かわまちづくり支援制度：国土交通省
<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/>（最終閲覧日2025年12月3日）
- 2) 上川丸と江別港（大正15年）：札幌開発建設部
https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/kasen_keikaku/e9fjd60000005wa.html（最終閲覧日2025年12月2日）
- 3) 国土交通省北海道開発局：石狩川水系千歳川河川整備計画(変更)，2015
- 4) 第三回かわたびほっかいどう大賞：
<https://kawatabi-hokkaido.com/2024/02/14/24994/>（最終閲覧日2025年12月2日）